

和集合と積集合の話

高部英明

「集合」という概念。最近は、小学校でも教えるそうだ。その中の和集合、積集合の定義は、集合 A、B の全体が和集合、重なった部分が積集合である。

今、A を夫の価値観や性格とし、B を妻のそれとすると、互いを尊ばない2人は、積集合という狭い世界でしか一緒にやっていけない。亭主閑白でも、B は積集合部分という狭い世界に閉じ込められる。ここでは、人生は楽しくないし、発展性も望めない。互いの価値観を認め合い、和集合の世界をエンジョイしたいものだ。

さて、A、B の関係は、個人と組織にも当てはまるだろう。特に組織がプロジェクトという明確な目的、価値判断を持つ場合は、ともすれば「個性の対立」が起こる。個人も組織も柔軟な価値観を持って欲しい。組織の中で「できることをする」のではなく、「やらねばならないことをする」。それも小手先で器用にこなすのではなく、自分の新しい世界を開く、つまり徹底してやってみる。そうすれば、いい意味での反作用として、自分の世界が広がる。学問に対する好奇心という個人レベルの価値観も広がっていく。逆に、組織にとっても、その構成員個々人の世界が広がることは、多様性を内包する柔軟な組織として、いかなる時代、局面にも対応し、発展を続ける組織へと成長していることを意味する。

そこで、早いが、結論。

- (1) 柔軟な価値観で、「和集合」でいきましょう。
- (2) できることをやるのではなく、やらねばならぬことをやりましょう。そうすれば、自分の世界も広がる。
- (3) 学問に対する好奇心を失わず、一生が勉強の日々です。「守背理」(剣道の言葉：基礎を常に背景にもてという意味)の言葉を胸に、カッコウつけることなく、謙虚に己のレベルアップに努めましょう。